

GSM Newsletter

vol.6 / 2023.9

GSM Topics

国際認証規格「EQUIS」を取得しました
第14回ベストティーチャー賞・優秀教育賞 選出
新任教員のご紹介
新寄附講座・寄附講義のご紹介
ニュース・イベントレポート
職員の声



京都大学経営管理大学院
Graduate School of Management, Kyoto University

News

京都大学経営管理大学院は 国際認証規格「EQUIS」を取得しました



京都大学経営管理大学院は、2023年5月3日に、経営学に関する高等教育機関（ビジネススクールなど）の国際品質評価機関 EFMD（European Foundation for Management Development、本部：ブリュッセル）より、国際認証規格 EQUIS を取得しました。日本の国立大学法人による EQUIS 認証は国内初であり快挙となります。

今回経営管理大学院は、審査団による自己評価報告書やインタビュー評価などの厳格なる審査および認証委員会による審議を経て EQUIS 認定され、特に実務世界との強いつながりを通じた各分野における研究・教育の高い品質などが評価されました。また、EQUIS 取得を受け、2023年6月にフランス・リヨンで開催される EFMD Annual Conference において、経営管理大学院が EQUIS アワードを受賞しました。今回の EQUIS 認証に当たり、ご協力いただきましたステークホルダーの方々には心より感謝申し上げます。引き続き経営管理大学院の研究教育活動や運営などの品質向上と改善を行い、ステークホルダーへの貢献に努めてまいります。



NEWS

第 14 回 ベストティーチャー賞・優秀教育賞が選出されました

経営管理大学院では、その年度に最も質の高い授業を提供した教員を表彰するため、「京都大学経営管理大学院ベストティーチャー賞」制度を設けております。同様に、非常勤教員には「優秀教育賞」が授与されます。

第 14 回目となる 2022 年度ベストティーチャー賞に関口 倫紀 教授と要藤 正任 特定教授、優秀教育賞に吉田 満梨 客員准教授と藤川 清史 非常勤講師が選ばれました。



澤邊 紀生 院長 (右)
ベストティーチャー賞 関口 倫紀 教授 (左)

ベストティーチャー賞
要藤 正任 特定教授

優秀教育賞
吉田 満梨 客員准教授

優秀教育賞
藤川 清史 非常勤講師

安達貴教准教授が「日本応用経済学会・著作賞」を受賞しました

経営管理大学院・経済学研究科の安達貴教准教授が、日本応用経済学会・2022 年度著作賞を受賞しました。2022 年 6 月出版の著書『データとモデルの実践ミクロ経済学 ジェンダー・プラットフォーム・自民党』（慶應義塾大学出版会）に対するものです。本学在籍者の受賞は、同賞初代受賞者の成生達彦名誉教授（元・経営管理大学院長）に続いて二人目となります。



小林潔司特任教授が土木学会名誉会員の称号を、河野広隆客員教授が土木学会功績賞を授与されました

6 月 9 日に東京都内のホテルメトロポリタンエドモントで開催された令和 5 年度土木学会総会の土木学会賞授与式において、小林潔司特任教授（名誉教授）が土木学会名誉会員の称号を、河野広隆客員教授（名誉教授）が土木学会功績賞を授与されました。

土木学会名誉会員は、10 年以上フェロー会員であって、土木学会の発展に対し、学術・技術に関する貢献が極めて顕著な会員に与えられるたいへん名誉ある称号です。土木学会功績賞は、土木学会会員であり、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の発展への顕著な功績に対して授与されるものです。



新講座のご紹介

【EY Japan 寄附講座】



寄付者：EY Japan 株式会社

近年、マルチステイクホルダー資本主義やサステナビリティと企業経営やマネジメントの統合が進んでいる。ステイクホルダーとの関係やサステナビリティにおいて、企業の経営理念やステイクホルダーとの共通の目標を示すパーパス(Purpose)の設定、およびパーパスを基軸にした経営は、非常に重要である。従業員へのパーパスの浸透が、エンゲージメントや財務的なパフォーマンスに影響するという研究も報告されている。

本講義では、いち早く「Building a better working world」というパーパスを導入し、顧客企業や社会に対して「パーパス経営」の普及に努めてきたEY Japanと京都大学経営管理大学院が協働して、「パーパス経営」の講義とセミナーなどを提供する。

【哲学的企業家研究寄附講座】



寄付者：

JOHNNAN 株式会社

ペガサステックベンチャーズ株式会社

アステリア株式会社

本寄附講座は、様々な問題をかかえるグローバル資本主義的体制下において、いかにして企業や企業家を取り巻く環境を現状よりもベターなもの(Betterment)にすることが可能かを探るものである。あらゆる場において生産性を重視するあまり、アイデンティティやカテゴリー、階級に基づく差別の再生産や、経済的格差の増大、個人主義的な能力主義に人々はさらされている。

本講座では「哲学的企業家(Philosophical Entrepreneur)」に着目し、企業や企業家個人が、そうした個人的／社会的な課題から目を背けることなく、いかにして倫理的に振舞うことが可能かを実践的に研究／教育する。

本寄附講座の名称でもある「哲学的企業家(Philosophical Entrepreneur)」の持つ資質を、以下のように定義している。

1. 生産的であるとはどういうことか、なぜ生産的である必要なのか／必要でないのかを問い続け、倫理的で「善く」あろうとする資質、2. 論理(ロジカル)と身体(フィジカル)を相互に行き来し、自己を身体の次元で会得し、生そのものを見つめる資質、そして、3. 行為遂行的(パフォーマンス的)に社会に関与し続ける資質、である。

(本年度秋期開講予定)

女性エグゼクティブ・リーダーシップ 育成プログラム

参加企業：

オムロン株式会社

京セラ株式会社

株式会社グリーンハウス

株式会社 島津製作所

株式会社新日本科学

住友ゴム工業株式会社

セイコーエプソン株式会社

株式会社ニチイホールディングス

阪和興業株式会社

株式会社堀場製作所

みずほ証券株式会社

株式会社村田製作所

山田コンサルティンググループ株式会社



近年、多くの先進諸国、また一部の新興国において、取締役会におけるジェンダーダイバーシティがトレンドとなり、様々な法律や規制が推進されています。日本の企業においても、今後 ESG(環境、社会、ガバナンス)投資が増大するにつれ、社会的責任(CSR)の一環としてジェンダーダイバーシティの改善が、ますます求められることとなります。しかし、日本における上場企業の取締役会に占める女性の割合は2021年で約7.5%にとどまっているのが現状です。この現状を改善し、日本企業のトップマネジメントにおけるダイバーシティを高めるためにはどのような取り組みが必要か、また女性のエグゼクティブ・リーダーを育成するにはどのような人材投資や開発が求められているのか。このような社会的課題・要望に応えるべく、ジェンダーダイバーシティの向上にコミットする参加企業とともに、産学が連携してジェンダーダイバーシティの向上に貢献していくことを目指します。

【プログラム内容】

役員を目指している、又は将来、役員候補になり得る女性を対象とする育成プログラムです。講義、プレゼンテーション、ケーススタディ、パネルディスカッション、グループコーチングセッションなど、参加者がトップマネジャーとして成果を上げるための充実した学習体験を提供します。とくに、女性リーダーが直面する様々な課題や成功するために必要となる知識とスキルを身につけるための、女性リーダーに特化した内容となっていることが特徴です。

■体系的な知識の習得(オンライン授業) 経営戦略、リーダーシップ、ガバナンス、財務等、トップマネジメントに求められる基礎的なカリキュラムを提供します。

■女性エグゼクティブに特化した知識の習得(オンライン授業) 取締役会での行動様式や、組織内外のネットワーク構築など、ジェンダーの固定観念にまつわる問題、そして社外取締役から見たガバナンス改革、ダイバーシティの問題などについて取り上げます。また、経験豊富な女性プロフェッショナルと意見を交わす機会を提供します。

■コーチング・セッション(対面授業) ロールモデルとなりうる女性経営者や女性経営幹部をメンターとして招き、参加者が抱える課題に対してアドバイスを受けることができます。グループプレゼンテーションやディスカッションを行い、将来的に自立した女性役員として活躍できるよう、自己啓発を支援することにより、組織の中で直面する課題を克服することを目指します。

■参加メンバー、講師陣、ゲストスピーカーとのネットワーキング 初回、中間点、プログラム終了時に、ネットワーク作りのための機会を設けます。さらに、プログラム修了生同士のネットワークも構築していきます。プログラム修了後も様々なイベントなどを通じて、現役参加者や修了生である女性エグゼクティブと継続的に交流をもつことが可能です。

新任教員のご紹介



門傳 藍香 講師

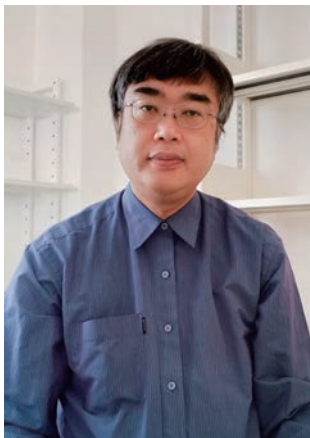
【専門分野、研究内容】

専門分野はマーケティングです。企業が価値を創造し、その可能性を最大限に発揮するためのマーケティング戦略は、実学的で生きた学問であるという魅力があります。研究内容は、国内外の市場経済に影響を及ぼすプラットフォーム・ビジネスに関する研究をしています。具体的には、GAFA (Google・Apple・Facebook・Amazon) や楽天、eBay、Uber、Netflix などをはじめ、ショッピングモールなどの実店舗型プラットフォームまで、幅広い領域を研究対象としています。

【メッセージ】

私自身が人生で励みになった言葉から、皆さんにお伝えしたいと思います。人生において、色んな困難や試練が起こることもあるかと思いますが、しかし、その山を前に「不可能」だと諦めてしまえば、そこで試合終了です。絶対に乗り越えてみせる、突破口を見出してみせると、心を決めて挑戦を続けていけば、やがて「可能性」は拓かれ、「希望」を見出すことができます。どんなに厳しい状況にあったとしても、心だけは負けずに、挑戦を続けて、希望の夢を掴み取ってみたいと思います。

座右の銘「青は藍より出でて藍より青し」



國分 圭介 特定准教授

【専門分野、研究内容】

私の専門は2つあります。一つは、脳情報学と呼ばれる、脳科学の一分野です。脳画像解析により得られる脳の健康度指標と、アンケート調査から得られる幸福感やモチベーションなどの心理指標との関係を明らかにするための研究を行っています。もう一つは、人的資源管理論と呼ばれる、経営学の一分野です。従業員の組織コミットメントを高めるための報酬のあり方や、国や文化による違いを明らかにするための研究を行っています。最近では、両者の融合的な研究、例えば、脳の状態と職場でのパフォーマンスの関係を明らかにするための研究を行いました。

【メッセージ】

ビジネスと研究の半々のキャリアを歩んできたので、GSM の環境は自分に合っているように思っています。現在は、高齢者の認知機能維持の秘訣を明らかにするための研究や、コロナ禍における企業のストレス管理のあり方についての研究を行っています。今後、皆さんと協力しながら、世のため人のためになるような、大きな研究成果を上げられるよう努力したいと思います。また、研究者を目指す人には専門性を活かして、或いは、ビジネスの道に進みたいという人には自らの経験を活かして、良いアドバイスをしてあげられたらと思っています。どうぞよろしくお願いします。



太田 一郎 特定教授

【専門分野・研究内容】

企業・事業再生。事業承継、M&A を専門分野としております。概ねコーポレートファイナンス機能軸と特定業界軸の組み合わせテーマのコンサルティング、アドバイザー業務が主流です。コロナ禍以降は、経営人材育成テーマの要請が多く、上場企業等の社外取締役等 経営トピイシューへの対応を心がけております。

【メッセージ】

過去の職歴から見えた事、それは「日本の経営者の少なさ」です。それは量ではなく質のとしての意味です。過去、現在は言うまでもなく、今後起さる日本の構造変化を見据え、次世代経営者の育成と経営者を支える即戦力CFOの育成に焦点を当て、実戦的なプログラムの提供により実現を図ります。

【その他】

趣味はゴルフですが、30歳から腕前に成長がありません。55歳となった今、「人としての成長が止まっているのだから仕方ない」という理由で自分を納得させました。そして、如何に面白いゴルフを如何に面白いメンバーで更に面白くする事はできないかを考える事が楽しみです。何かいい案があればご教示頂きたい、お願いします。



竹末 直樹 特定教授

大阪生まれの大阪育ちで、本学土木工学科を1986年に卒業後、建設会社に13年間、三菱総研に24年間勤務して参りました。

建設会社では、設計、施工管理、営業、契約・調達などの建設実務に幅広く携わり、海外（米国、香港、シンガポール）にも留学と勤務で計5年ほど赴任しました。三菱総研では、国・地方自治体や民間企業をお客様として、道路、河川、下水道等の社会資本（インフラ）の老朽化対策を中心としたインフラマネジメントの政策形成やコンサルティング業務に従事しておりました。JICA、JBIC、世界銀行などのODA案件にも多く携わり、最近では、国が進めるインフラ分野のDX（デジタルトランスフォーメーション）に伴走し、コンセプトの検討やアクションプランの作成などを行っておりました。並行して、（一社）日本アセットマネジメント協会の理事として、アセットマネジメントの国際規格（ISO55000シリーズ）の開発や運用・更新に関する国際活動にも精力的に携わってきました。趣味は、学生時代に打ち込んだゴルフ（体育会）を20年以上前に止めてからは、もっぱら「食べ歩き・呑み歩き」です。三菱総研で地方自治体の仕事に携わっていた時は、太田和彦さんの著書を片手に自ら「全国居酒屋紀行」を実践していました。国際会議等で海外出張する時も現地の美味しい（あるいは珍しい）食べ物を口にするのが大きな楽しみの一つでした。40年ぶりに京都に住むことになりましたが、「美味しいものを食べるのが最高の幸せ」と信じる者にとっては「京都はこの上ない環境」と家内と喜んでいます。

インフラの老朽化は先進国の共通課題です。特に日本は、高度成長期に急速につくられたインフラが一気に老朽化するという世界でも前例のない課題に直面しています。デジタル技術も活用した次世代のアセットマネジメントの研究に頑張っており、取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

EVENT REPORTS

ビジネスフロンティアセミナー シリーズを開催しています



斎藤 岳氏



浅井 寛氏



鵜澤 慎一郎氏



落合 文四郎氏

経営研究センターでは産官学連携事業の一環として、経営研究センター主催『ビジネスフロンティアセミナー』シリーズを今年度も開催しています。各業界を代表する企業の経営トップの方々を順次お招きし、最先端ビジネスやその経営戦略等についてご講演いただきます。また、参加者の方には産業界との接点を持つ機会やキャリア形成の一手段としてもご活用いただいています。

【第1回】

『日本企業の30年の停滞と、今後30年に向けた処方箋』

講演者：斎藤 岳氏（アビームコンサルティング株式会社戦略ビジネスユニット ビジネスユニット長 執行役員プリンシパル）

【第2回】

『パーパス経営から紐解くプロフェッショナルファームの仕事とやりがい』

講演者：鵜澤 慎一郎氏（EY アジアパシフィックピープル・アドバイザリー・サービス 日本地域代表 パートナー）、他

【第3回】

『証券 / 投資銀行の最新動向とみずほ証券のキャリア形成』

講演者：浅井 寛氏（みずほ証券株式会社 CFO 兼 CHRO）

【第4回】

『VUCA の時代・労働人口減少時代における社会人育成という仕事とやりがい』

講演者：落合 文四郎氏（アルー株式会社 代表取締役社長）

スタートアップワールドカップ 京都予選を開催しました



ピッチ優勝 HOMMAGroup 株式会社

経営管理大学院は共催事業として、7月6日（木）に「スタートアップワールドカップ京都予選」を京都大学時計台記念館にて開催しました。スタートアップワールドカップとは、世界のスタートアップエコシステムの構築と起業家精神の育成を目的とする、ペガサス・テック・ベンチャーズ主催のスタートアップピッチコンテストです。世界70地域・国以上で予選が行われ、サンフランシスコで開催される決勝大会には世界トップクラスのスタートアップ、VC、起業家、大手企業が集結し、優勝企業には約1億円の投資賞金が贈られます。

当日は、堀江貴文氏（SNS media&consulting 株式会社 ファウンダー）とアニス・ウツザマン氏（ペガサス・テック・ベンチャーズ CEO）、出雲充氏（株式会社ユーグレナ代表取締役社長）と米倉誠一郎氏（一橋大学 名誉教授）のスペシャル対談の後、京都予選ファイナリスト12社が白熱したピッチを行い、「建築デザインとAIを活用した家電と住宅設備をつなぐコネクテッドホーム及びスマートホーム技術を提供」のHOMMAGroup 株式会社が日本代表に選出されました。

今回の来場者数は約800名（オンラインでの視聴者は1500名以上）、メディア30社など大勢の皆様にご来場いただき、盛況のうちに終了しました。

今後、9月8日にグランドハイアット東京で東京予選、世界決勝戦は12月1日にサンフランシスコにて開催されます。



堀江氏とウツザマン氏



出雲氏と米倉氏

経営管理大学院・天草市・(株)パスコによるメタバースプロジェクト

「宝の島・天草」実証プロジェクトを開始しました

本大学院附属経営研究センターと天草市は包括協定（平成 23 年締結）に基づく活動の一環として、(株)パスコの技術協力の下、デジタル技術を活用した文化遺産の保存とその活用に関する実証プロジェクトを開始しました。メタバースを使って有形・無形文化遺産を仮想空間内で融合させることで、記録保存資料の価値を高めるとともに、文化遺産のデジタル資料を活用した地域振興に貢献する新たなビジネスモデルの構築を目指します。

本プロジェクトでは、有形文化遺産をデジタル再現するほか、モーションキャプチャ（※）などのデジタル技術で“牛深ハイヤ”踊りなど無形文化遺産のデジタル化を行います。デジタル化した文化遺産の情報は、後世への記録として保存されるほか、天草市の広報活動や観光事業などへの活用が検討されます。今後は、国の重要文化財に指定されている祇園橋の 3 次元モデル化に着手するとともに、活用方法を検討していきます。

※モーションキャプチャ：人間や動物の体にセンサーを取り付け、動きをコンピュータに取り込む技術



令和 4 年度企業金融研究奨励賞（みずほ証券寄附講座）

表彰式を開催しました

令和 5 年 3 月 17 日（金）に令和 4 年度企業金融研究奨励賞（みずほ証券寄附講座）授賞式をハイブリッド形式にて開催しました。

本研究奨励賞は、企業金融・企業会計・企業統治分野において顕著な業績をあげた若手研究者を称え、さらなる当該分野の研究を促進することを目的として 2017 年に設立されました。第 6 回を迎えた今年度は、論文 5 編、研究計画 2 編と合計 7 編の応募があり、厳正なる審査の結果、下記の通り論文部門で優秀賞 1 編（共著者 2 名）、研究計画部門で優秀賞 1 名の受賞者を決定しました。

【優秀賞（論文）】

「Budgetary Participation and Management Earnings Forecasts」

石田 惣平 氏（立教大学 経済学部 准教授）

岩澤 佳太 氏（東京理科大学 経営学部 経営学科 専任講師）

【優秀賞（研究計画）】

「非鉄金属ビジネスにおけるサステナブル経営を目的としたリスク分散と事業戦略」

榊原 敬治 氏（京都大学 大学院 総合生存学館 博士課程 2 年）



職員の声



佐野 具子（さの ともこ）さん

担当事務

哲学的企業家研究寄附講座

グリーンアントレプレナーシップ研究寄附講座

サービス&ホスピタリティプログラム

——— いつも、横断的に色々なお仕事をやっている印象があるのですが。

そうですね、基本的には山田仁一郎先生に関連した仕事を中心なのですが、他の先生のお手伝いもあり、色々やりたがりなんです。最初は人手が足りないところをサポートする形だったんですけど、面白そうだったプロジェクトに自分から関わるようになりました。もちろん、山田先生と相談した上でやっています。GSM での勤務は 10 年ほどになるのですが、それまでは金融機関でずっと働いていました。入職当初は広報の WEB 更新をやっていたんですけど、若林直樹先生から「新しい講座の立ち上げをやってみないか」と声をかけていただいたんです。その業務に携わるうちに、仕事がどんどん楽しくなってきましたね。

——— 立ち上げて、労力もかかりますが一番面白い時期ですね。

GSM の先生は皆さん気さくなので、業務を進める中で「これどう思う？」とか、聞いて下さったんです。それもモチベーションアップにつながりました。

講演にお呼びしたい方とか、自分でアポイント取りに行ったりしてましたね。

もともと私、GSM に入職する前から佐山展生先生の講演を聞いて尊敬していたのですが、教員として GSM にいらっしゃるのを知って、それからお手伝いをしたり講義に参加しているんです。私が影響を受けて人生が変わった佐山先生の言葉を紹介させてください。「10 年後の自分から見たら今の自分はめちゃくちゃ可能性がある。それに気がついたらもう何歳だなんて言っている暇はありません」面白そうって感じたことは全部やろうって思います。遠慮してる暇なんかないなって。

仕事もプライベートもやりたいと思ったことは積極的にチャレンジしています。最近では他大学の科目等履修で哲学の勉強を始めました。周りの先生や職員、学生の方、企業家の方など本当にいい人との出会いに恵まれて良い環境で仕事させていただいていると思います。

GSM Newsletter vol.6

〈発行〉

2023 年 9 月

京都大学経営管理大学院

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL : 075-753-3410 FAX : 075-753-3529

URL : <https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp>